

資料提供	
平成26年4月28日	
担当課 (担当者)	健康政策課 (織奥・住田)
電話	0857-26-7153

抗インフルエンザ薬に耐性を持つインフルエンザウイルスの確認

抗インフルエンザウイルス薬への耐性を調査する目的で実施している抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス¹⁾において、県内の検体から、抗インフルエンザ薬のうちオセルタミビル（商品名：タミフル）及びペラミビル（商品名：ラピアクタ）²⁾が効きにくいインフルエンザウイルスが確認されましたので、お知らせします。

○インフルエンザウイルスの検出状況（平成25年9月から平成26年8月の間 単位：株）

	鳥取県 (平成26年4月28日現在)	全国 (平成26年4月21日現在)
インフルエンザウイルス	A(H1N1)pdm09 (2009年に流行した型)	A(H1N1)pdm09 (2009年に流行した型)
薬剤	・オセルタミビル ・ペラミビル	・オセルタミビル ・ペラミビル
耐性株数 (%)	1 (2.3%)	88 (4.5%)
検査株数	44	1,940

出典：国立感染症研究所ホームページ (<http://www.niid.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>)

※県内では、A(H1N1)pdm09 インフルエンザウイルスにおいて過去に平成22年2月及び平成23年5月に1株ずつ検出されている。

(鳥取県衛生環境研究所の調査結果：<http://www.pref.tottori.lg.jp/60729.htm>)

※国立感染症研究所においても、4種類の抗インフルエンザ薬²⁾の感受性試験を実施予定。

※A(H3N2)香港型及びB型インフルエンザウイルスにおいては、全国で今シーズン薬剤耐性は確認されていない。

※日本国内で主に使用されている4種類の抗インフルエンザ薬²⁾のすべてに耐性を示す変異ウイルスは、上記抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスではこれまでに1例も検出されていない。

<参考>

1) 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスについて

- インフルエンザウイルスの抗インフルエンザ薬耐性株の検出及び流行状況を継続的に監視するため、平成21年度から国立感染症研究所と全国の地方衛生研究所で検査を実施。
- 地方衛生研究所ではインフルエンザウイルス A(H1N1)pdm09 の耐性遺伝子について検査。
- 県内においては、8医療機関から月2回検体を回収し、衛生環境研究所で実施

2) 抗インフルエンザ薬について

- 日本国内では、インフルエンザの治療には、主にオセルタミビル（商品名：タミフル）、ペラミビル（商品名：ラピアクタ）、ザナミビル（商品名：リレンザ）及びラニナミビル（商品名：イナビル）の4薬剤が使用されている。

3) 県内のインフルエンザの流行状況について

- 平成26年4月16日にインフルエンザ注意報を解除(注意報発令日：平成26年1月29日)
- 平成26年第16週(4月14日～4月20日)の定点あたり患者数：4.62名
(東部地区：4.50名、中部地区：3.50名、西部地区：5.36名)